

七つの星を背負ったナナホシテントウ

南校舎の校庭側に、小さなゴーヤ棚がありますが、そこにナナホシテントウがやって来ました。アブラムシでもいるのでしょうか？ 拡大してみると、メカニックのようで、結構カッコいいですね。南校舎の校庭側に、小さなゴーヤ棚がありますが、そこにナナホシテントウがやって来ました。アブラムシでもいるのでしょうか？ 拡大してみると、メカニックのようで、結構カッコいいですね。

●ナナホシテントウ コウチュウ目 テントウムシ科

R5,7,9 清瀬市

てんとう虫と言えば、赤・黄色・茶色・黒など色あざやで、ボディーがまん丸の可愛い姿が人気です。てんとうむしと言えば、ナナホシテントウをイメージする人が多いと思いますが、日本には、150種類以上いるそうです。ほとんどの種類は、成虫も幼虫も、農作物につくアブラムシなどを食べる肉食性の益虫（人間にとって有益な昆虫）です。中には、ニジウヤホシテントウ（オレンジ色の体に28個の黒い点）のようにナス科の植物について、樹液を吸う草食性もいて、こちらは農作物につく害虫です。中には菌類を食べる種類もいます。



テントウムシ科は、カブトムシと同じで、身を守る硬い翅と、その下に格納されている飛ぶための下羽を持つ甲虫で、卵⇒幼虫⇒蛹⇒成虫と完全変態する昆虫です。ナナホシテントウの場合、春に産卵した卵が孵化・幼虫・羽化して初夏に成虫が飛び回ります。寿命は2ヶ月ほどで、その成虫たちは、夏の終わりまでに産卵をします。そしてその卵が孵化・幼虫と成長して、晩秋には羽化して成虫となり、成虫のまま草の根元などで集団で越冬し、次の春に活動を開始します。つまり、秋から夏、夏から秋と、1年で2世代がいることになります。

赤い上翅には、地域や個体により、大きさは変わりますが、名前の由来となった黒い斑点が7つあり、胸部と頭部は黒で、白い斑点がそれぞれ2つあります。ボディー全体は、硬いからで覆われ、テカテカつるつるの半円形で、鳥がついばみ難くなっています。天敵に襲われると、足を縮めて擬死（死んだふり）をしたり、嫌な臭い（言葉には言いにくい臭いですので、捕まえたときに、体験してください。）の黄色い液体を足の付根から出だして防御します。あの可愛い赤い色は、鳥などに対する警戒色（天敵に「俺は、不味いぞ、毒を持っているぞ！」と示す方法）ということです。実際には毒をもってはいません。テントウムシ科の中には、毒を持っている種類もいるそうです。



テカテカつるつるのボディー



頭部と胸部は、黒地に2つの白斑点



赤色の上翅に、7つの黒斑点

【関連動画】NHK for school (各1分30秒～2分30秒)

- ①テントウムシの育ち方
- ②テントウムシの模様
- ③冬のテントウムシ
- ④アブラムシを食べるテントウムシ

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=00005301603_00000

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=00005400866_00000

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=00005400650_00000

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=00005400621_00000

